

—創世記 18 章・20-32、コロサイ 2 章 12-14、ルカ 11 章・1-13—

イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、／御名が崇められますように。御国が来ますように。わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。わたしたちの罪を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』」また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。(中略)しかし、言うておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。—ルカ 11 章—

## 命の完成

ルルドで神を知り、回心したノーベル賞科学者アレクシス・カレルが述べる「命を完成させる提言」には、「人間の究極的な救い」について注目すべきものがあります。体験から彼は、結論を述べます。

“「知識で神を知ろうとする者に神は遠ざかり、心に愛を持つ者には、神の方からその人に近づくと。そして命には原理があることを述べます。「この世界、宇宙は神に創られ、生かされている。だから、本気でこの世界を知ろうとすれば、神と関わらなければならぬ。世界は宇宙の創造者が造った秩序の中に存在理由があるのだから。」

従って、私たち人間が命を完成させるためには『命の原理』に従って生きなければならぬ。これを怠れば、重大な危険を冒すことになるだろう。

現在起こっている世界崩壊の兆しは、自然の秩序に合致していなかった先祖からの生き方が誤っていたから。

『命の完成』にとって精神的要素は知的、物質的要素と同じく欠かせないもの。しかし、人類はまず知性を発達させようとして精神はほぼ完ぺきに無視。この欠如が社会の建設的一員となることを不可能にしている。

人格に力を与えるのは知性よりもはるかに精神的機能。その中で最も知られずにいるのは『聖なるものへの感覚である祈り』である。『祈り』は目に見えない世界。神との一致への人間の努力。現代人に祈りは、廃れた習慣、空しい迷信、無知蒙昧の名残と見なされているのは、聖なるものの消滅、不毛な祈りが原因である”と。

求めなさい。

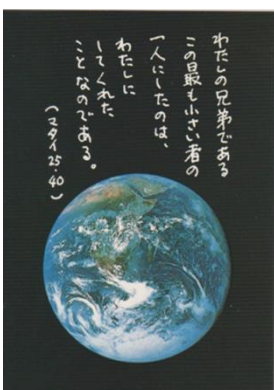
捜しなさい。  
叩きなさい。

と、主イエスが教えておられる祈りは、自我の欲望からくる『不毛な祈り』ではなく、『人の心の清さ、神への信頼、真に必要なもの(神)を求める心』に聖霊が来てくださるといふ恵みなのです。

体に必要な物質は、正しく分配すれば、全ての人々が満たされるように神が私達に与えておられるという信仰があるなら世界は悟るでしょう。神が私達に求めておられるのはただ一つ。神の愛(聖霊)を求めて、人を赦し、世界が仲良く、一つになることだと。

2022年 7月17日

主任司祭 昌川信雄



わたしの兄弟である  
この目撃も小さい者の  
一人に一人は、  
わたしに  
「主よ、ヨハネが弟子  
たちに教えたように、  
わたしたちにも祈りを  
教えてください」と  
言った。